

4月の各学年の保護者会で、私の学校経営の根底にある児童観「子供は、未来の守護者」「子供は、未来からの留学生」というお話をしました。

〔子供は、未来の守護者〕

文字通り、「私たちの未来を形成し、未来を守っていくのは、今の子供たちである」ということです。実は、この言葉は、アメリカを代表する歴史学者であり、ケネディ大統領の補佐官を務めたアーサー・シュレジンジャー氏が、その講演の中で「子供は未来社会の守護者」とであると語っていたものです。

子供は、今は子供だけれども、一人一人の人間（人格）であることはもちろん、未来の守護者です。すなわち、未来の担い手である子供たちを守り育てるということは、確かな未来そのものを創り出すことと同じであり、私たちには、未来の守護者をしっかり育てる責務があります。

未来の守護者を育てる仕事は、未来からの負託であり、私たちは、教育の結果（未来）に責任をもたなければなりません。このことが、私の教育観、児童観の原点です。

〔子供は、未来からの留学生〕

また、見方を変えると、子供たちは「未知の世界から、過去に学びに来た、留学生である」ということができます。未知の世界とは、「2011年度に小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろう。キャシー・デビッドソン教授」「今後10～20年程度で、アメリカの総雇用者の約47%の仕事が自動化されるリスクが高い。マイケル・A・オズボーン准教授」という未来です。

私たちの想像をはるかに超えた未来から、子供たちは現代に何を学びに来たのか？

それは、「自分の五感で体験し、自分の頭で考えること」にほかなりません。未来がどんなに変化しようとも、人と人とのコミュニケーションを取りながら自分の脳を使って考えることが大切です。子供たちには、現代でしか学べない豊かな体験をして、未来に帰ってほしいと願います。

〔未来を予測する最善の方法は、自らそれを創り出すこと〕

先を見越すことの難しいこれからの時代においては、いわゆる課題を解決する力や創造力とともに、人間特有の感性や優しさを身に付ける「真に学ぶ力」が必要です。具体的には、今ある社会に適応する力…あいさつ・返事ができること、話をしっかり聞けること、係活動など役割を果たすこと、協調性、困難への克服、忍耐力、柔軟性など、主体的に対応する力です。

これからの社会を創造する力…仲間と高め合うこと、多様な方法で問題を解決すること、自ら判断する力、挑戦する意欲、発想力、応用力など、より良く生活するために自ら変化させる力です。